

氏名	高野 聡
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3785 号
学位授与の日付	平成 21 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Identification of Risk Factors for Lymph Node Metastasis of Colorectal Cancer (大腸直腸癌におけるリンパ節転移危険因子の同定)
論文審査委員	教授 田中 紀章 教授 小出 典男 准教授 那須 保友

学位論文内容の要旨

大腸直腸癌のリンパ節転移の有無は予後規定因子の一つであるが、リンパ節転移に影響を与える臨床因子についての検討はほとんどなされていない。このためこれについて検討を行った。1997年1月より2001年12月までの間に岡山大学並びに32の関連病院にて大腸内視鏡検査を受け直腸大腸癌と診断された2125例の患者について検討が行われた。多変量解析の結果、T stageの増大(OR;2.54, 95%CI 2.17-2.98)、組織高悪性度(OR;1.63, 95%CI 1.10-2.41)がリンパ節転移を予測する独立因子であった。その一方で併存腺腫の存在(OR;0.78, 95%CI 0.65-0.95)はリンパ節転移のないことを予測する独立因子であった。年齢、性別を分けて検討を行ったところ、50歳以下の患者では右半結腸癌がリンパ節転移を予測する独立因子であった(OR;2.23, 95%CI 1.01-4.93)。その一方で、女性においては組織高悪性度の腫瘍がリンパ節転移の独立因子として示された(OR;1.74, 95%CI 1.01-3.00)

論文審査結果の要旨

大腸直腸がんのリンパ節転移の有無は予後規定因子の一つであるが、本研究では、リンパ節転移に影響を与える臨床因子について大腸内視鏡検査を受け直腸大腸癌と診断された2125例の患者を対象として検討が行われた。

多変量解析の結果、T因子、組織高悪性度、併存腺腫の存在がリンパ節転移のリスクを予測する独立因子であった。

本研究は手術などの治療方針に有益な情報を提供するものであり、価値ある業績と認める。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。